

実践的な技術習得を

佐世保工業土木科生徒が現場実習



丁張りがけの基本を学ぶ



トランシットの据え付け状況

県立佐世保工業高校土木科の2年生を対象にした工事現場実習が7～9日までの3日間、佐世保市や東彼杵町内の工事現場で行われ、将来の建設業界を担う生徒らが、最新の技術や実践的な技能の習得に励んだ。

今回、協会等を通じて同校の生徒を受け入れた企業は(株)朽原建設など10社。各社とも、職員らが親切かつ丁寧に指導し、現場の厳しさと楽しさの両方を伝えた。

東彼杵町内で農道工事を施工中の(株)朽原建設では、生徒4人を受け持った。8日には、切土法面の丁張りがけを実習。逆トラバース計算に基づき、トランシットによる切り出し付近の幅杭設置や、レベルを使った水準測量などで、1割勾配の丁張りがけに挑んでいた。生徒らは、慣れない作業に戸惑いながらも、同社の津田賢一現場主任の指導を素直に聞き入れ、確実に課題をこなしていた。

自身も佐世保工業のOBという同社の坂口直也現場代理人は「学校では課題を与えられて行動するが、自分たちで考えて行動に移すことも大切。今回の実習が少しでも役立てばうれしい」と話した。

また、実習体験した松本康平くん(16歳)は「朽原建設の方に親切に指導していただき、現場での応用を学べた。難しい作業もあったが楽しかった」と感想。中島大貴くん(17歳)は「応用を学ぶには、学校の授業で習う基本が大事だと思う。これからも先生を信じて卒業まで頑張っていきたい」と意気込みを語った。

今回、同校の生徒を受け入れた企業は、(株)朽原建設、(株)誠伸建設、西部道路(株)、(株)トモダ、(株)中野組、(株)平成建設、(株)毛利組、大坪建設(株)、(株)岩野建設、(株)堀内組—といった10社(順不同)。